

「ハングル」がつなぐ心と言葉 – 神奈川県庁での韓国語講座を通じて

神奈川県の皆さん、今日は、私の母国語である韓国語の「ハングル」と、神奈川県庁の職員の皆さん向けに実施した韓国語講座についてご紹介いたします。

【ハングルとは】

まず、皆さんは「韓国語」と「ハングル」の違いをご存じでしょうか。同じではないかと思われるかもしれませんが、「韓国語」は言語(話し言葉)であり、「ハングル」は、その言語を表記するための文字(書き言葉)です。「ハングル」は世界で唯一、創製者と創製時期が明確な文字であり、「誰が、いつ作ったのか」が明らかになっている点から、世界的にも高く評価されています。

- ・創製者(誰が)： 朝鮮王朝第4代国王・世宗(セジョン)大王(テワン)
- ・創製時期(いつ)： 1443年創製、1446年に「訓民正音」として公布

世界の多くの文字、例えば漢字やアルファベットなどは、長い時間をかけて自然に発展してきたため、創製者や時期がはっきりしていません。しかし、ハングルは創製の意図、背景、時期が全て記録として残されており、その点で大きな意義があります。

当時の韓国(朝鮮)は漢字文化圏に属しており、書き言葉として漢字が使われていましたが、漢字は非常に複雑で、読み書きができるのはごく一部の上流階級の人たちに限られていました。そのような中、世宗大王は「誰でも簡単に学べて使える文字」を目指し、発音器官の形に基づいてデザインされた、科学的な文字体系である「ハングル」を創製したのです。

「訓民正音」の序文には、次のような有名な一節があります。

"我が民は言いたいことがあっても、それを文字で表せないことを憐れんで、この文字を作った"

このフレーズだけでも国民を愛して、文字を作ってくれた王様の愛情が感じられ、世宗大王は今なお理想のリーダー像として多くの韓国人に尊敬されています。韓国ではハングルの創製と公布を記念して、10月9日を「ハングルの日」として制定し、学校や公共機関などで彼の功績を振り返るイベントが毎年行われています。特に今年(2025年)からは、世宗大王の誕生日である5月15日も国家記念日に指定されました。韓国人にとって、ハングルは単なる文字ではなく、「思いを伝える力」を与えてくれた誇り高い文化遺産です。ちなみに、世宗大王は韓国の1万ウォン紙幣の人物なので、韓国にいらっしゃったら、1万ウォン札を見て、ぜひ私の話を思い出してください。

【韓国語講座の始まり】

日本に来る前は、神奈川県庁で韓国語講座を開講することになるとは、夢にも思っていませんでした。来日後にお話をいただき、不安と期待の入り混じった複雑な気持ちで準備を進め、2024年の11月末に講座をスタートしました。京畿道から来た交流職員として、韓国に触れ合ったことのない神奈川県



▲ 韓国語講座(大同生命ビル会議室)

庁の皆さんに韓国の言葉と文化をもっと身近に感じていただきたいと思い、韓国語未経験の方を対象とした初心者講座を開講することにしました。定員34人に対してなんと80人以上の応募をいただき、感謝の気持ちでいっぱいでしたが、皆さんの期待を思ったら同時に責任の重さも感じました。

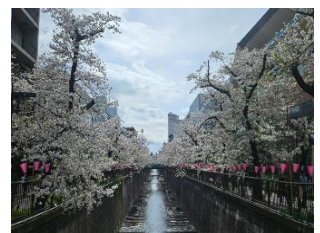
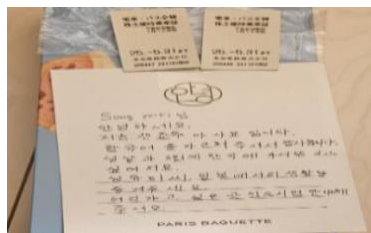
【韓国語を学ぶ時間、つながる心】

韓国語には、日本語にはない発音が多いため、最初の 5 回は発音の練習に集中しましたが、回を重ねるごとに皆さんの発音がどんどん上達していくのを感じて、努力を続ければきっと上手になれるという確信が持てました。

講座では、韓国語の童謡を歌って、体を動かしながら楽しく体の名前を覚えたり、旅行や日常会話で使える表現、実際に韓国でよく使われる若者言葉などを紹介しました。毎週 1 時間だけでしたが、皆さんが集中して熱心に取り組んでくださったおかげで、だんだん笑顔と笑い声が溢れる温かい雰囲気のカラスになりました。私自身も授業を通じてたくさんパワーをもらっていたので、皆さんと会える毎週の木曜日を楽しみにしていました。韓国語と日本語は似ているようで、違うところも多いので、お互いの文化の奥深さに触れる貴重な時間になりました。

授業の初めに「15 回中 14 回以上出席された方にはプレゼントを差し上げます」とお伝えしたのですが、34 人中 15 人の方が見事に達成されました。遠方から時差出勤して毎週来てくださった方、仕事の合間を縫って出席し、講座後に部署へ戻って残業された方など、皆さんの熱意に胸が熱くなりました。「楽しかった」、「面白かった」と言っていただけでも、もちろん嬉しかったのですが、忙しさや疲れを乗り越えて「わざわざ足を運んでくださる」こと自体が何よりのメッセージだったので、小さいながらも 15 人の方に感謝を込めてプレゼントを渡せたことがとても嬉しかったです。

初回の授業で、好きな日本のドラマ「最高の離婚」の話をし、春になったらロケ地の中目黒に行ってみたいと言ったことを覚えていてくださった方が、最終回に中目黒に行ける往復の切符と、韓国語で書かれた手紙をプレゼントしてくださいました。その切符で実際に中目黒の桜並木を歩き、大切な思い出をプレゼントされたような感じがしました。



▲ 生徒さんの手紙と中目黒までの切符、中目黒の桜並木

また、大好きな映画「ラブレター」の話を授業でしたところ、ちょうど日本で 4K 版が公開され、受講者の方と一緒に観に行き、映画についてたくさん語り合えたことも素敵な思い出になりました。

【教えること、学ぶこと】

この講座を通じて、教えることの喜びだけでなく、人と人とのつながりの温かさを感じる体験ができたこと、深く感謝しています。至らない点も多かったと思いますが、「先生」と呼んで毎回授業に来てくださった皆さんのおかげで、神奈川県庁での韓国語講座は自分にとってかけがえのない思い出になりました。世宗大王が伝えたかった「思いを言葉にする力」その大切さを、神奈川県庁で皆さんと分か



▲ 最終回の韓国語講座(2025. 03. 13. 木)

ち合えたことを心から嬉しく思います。毎回、写真などの記録を残してくださったご担当の古尾谷さんをはじめ、参加してくださった交流グループの方々にも感謝の気持ちを伝えたいと思います。皆さんとの出会いとご縁、学びに、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。